713
2378
251

特
2378
251

東西菴南北作

三冊物

うそや鳴物語

昔とりの

のはせん

勝川春扇画

永壽堂梓

文化己巳春新刻

於半長右エ門雙子 復讐實語教

山林堂

一之巻

力士桂川長右エ門
実名瀧口要人之助

浪人
実名
厄園幸左エ門
桜田吉之丞

千鶴
萬亀
浄瑠璃

あの金銭をよ
ゑびいてそう
すると
ちまたをへめんで
ゑりゝいそう花
うんでそうな
ゑんの中でも
とれんさし
あげまそう

二之巻

ある日あさぬれ
ようどうろう
あれ
やうに
あうてあうさ
と
あぶーあ
うらうーぐ
ぬたるるるす
ぜあろあれ内よ
人のあたぜされ
さひとさまのやの
おいーぜまぜたてう
う狐ぜうせうけあうんを
うくーんさ さればみず あいろみ
とうぐーうくればもいーいうねの
れーさみいーあう さうさばいて
ーんせ 狐どまぐあうんつまうく
まいうぐーとうつぐぜまろかようろ
うびまがうろうざのうれありきんと
ふがんみあぜうんぜうせばちょうろうびう
ぜかうくあうんぜつまきたりあいーと
あまろうとうぐーてさ多ぐくどれろ
すいーいう すれどーてぐむとめさの
うさんうんうんーて
うぐさんせ

つやあれあんさろよあいーれさーうて
ゆさーぜたいたてれいろようたいんーれ
あるまーどとそれよううーのおどうぜく
つれ四ぜさるぐろれ狐をませうく
四本ぐーうらよくうをつけ
まいろぜいふーていけど
ろうさぐのせめよはうんれ
くうーむむーうろうろに
れとうろのうーうーれび狐
月でゆくーうつりるゆまうろ
あいーどのせろうんむゆう
あうんぐうとろ
さうのまうをとうひきうーまーう
そのコけれあうんれうーうんぐ
あうぞよというよれあいーれあどうれ あうんぐ
くうんうーう狐うれいろう
いうてまびこれでべ
いよくゆきうろのどのへうーせうくきうと
あうとほうんどのへうーせうくきうと
せんぎせうやあーぬとあれきう
れどれてつきうくうりる
ゆまうつーぐうあうよあうんぐううーうんうも
きうーうあいーよぐまされこれまうぐあまさの
うれ狐うーまーうのざんれんさよ伏ぐれ
まいーよあざ狐あさんとうひーぐうねく
まいーのうーうさうせざるうのをさうう
あぐべー
うへうーうーうさうのうーう狐おさあさんと
うのうさうーうするは狐ちゆうぐうーーてあう
まうれれのまうせうまびそれうんきーぐきさ
うちくーようこびうろこそおうーくれ

おさんん
「あんまりこあまく
すぎるようなあやの
つゝへぞろ茂
「あつく
どさん
うんうん
して
ぐさん
せ
▲このあつさぢうう
きあがるひと祝く
ちうりみあつさう
ちさひらくのむが
あろくろとあんしぶ
えんあつろりであつさう
ろゝひ正してのけ
あつさのう
「ぢうさうあつ
ひぢうえんの
いりしとさ
ぢろのあが
しもだんよ
「たらひの
ちさぎぢ
ゐしひと
ぢろうよん
ぢろあんサ
「これはまるわどの
祝ろぶやまぶ
くまこえん
しんぜよ
せう
「ちゃ
くろ
えんさう
じゃ
「ぢうさうあつ
ひぢうえんの
いりしとさ
ぢろのあが
しもだんよ
「たらひの
ちさぎぢ
ゐしひと
ぢろうよん
ぢろあんサ

三の巻

養命丹
芝神明前
赤坂竜

文化七庚午歳 新板繪草紙目録

紙商次郎兵衛蔵版 美濃屋 近江の 通俗大雑書 六冊 十返舎一九作 歌川豊廣画

唐今成家作 蔵之長崎之 新波屋 孫 男作三箇太鼓 五冊 十返舎一九作 歌川国満画

浪花の ゆめの子 復讐團七嶋 六冊 東西菴南北作 勝川春扇画

らくやの もじ右衛門 のぶせん 三冊 東西菴南北作 勝川春扇画

石山源吾 粟津右内 勧善近江八景 六冊 関亭傳笑作 蘭齋北嵩画

陰陽 徳 報 鷺頭山非之助太刀 三冊 関亭傳笑作 歌川国満画

復讐談 忠孝大鶏塚 六冊 竹塚東子作 菊川英山画

仇討実話 頓秀胡蝶丼 三冊 竹塚東子作 北川美丸画

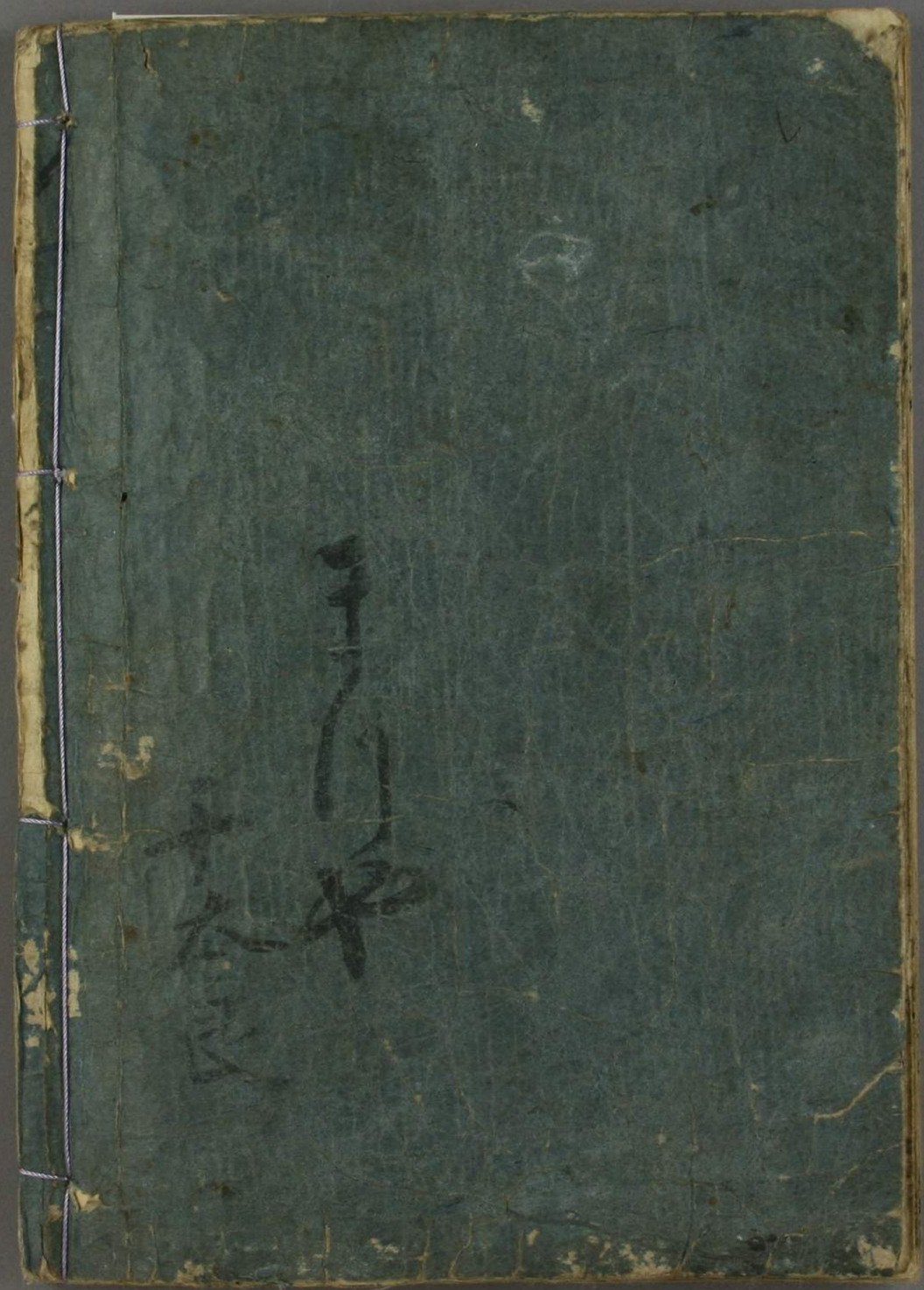
絵入 本 實語教操拂 三冊 十返舎一九作 菊北馬画

目録之通当巳年 上方より追々くだり申し候 西村

作者 山東京傳 同 京山

画工 歌川豊國 同 國貞 鳥居清峯

右の画作者の名前上の所に出板いたし候 中山目録かしら 西村

彫師 小泉新八 荻原源次郎 上村長吉

板元 江戸馬喰町二丁目角 西村屋與八